２３Ｅ区の調査成果

２３Ｅ区では、古墳時代前期（約1700年前））の溝が２条発見され、たくさんの土器が出土しました。土師器の台付甕、小型丸底壺、高杯などがあります。

このほかに、中世（鎌倉時代から室町時代：約800から600年前）の井戸、土坑、円形周溝遺構なども確認されました。土坑から墨書された山茶碗が出土しました。

２４Ｄ区の調査成果

２４Ｄ区では、中世（鎌倉時代から室町時代：約800から600年前）の土坑や溝などの遺構が確認されています。山茶碗などが出土しています。

今後の調査について

今回の調整池などに関わる調査は７月頃まで行います。また、これ以外にも、愛知県埋蔵文化財センターでは青山神明遺跡の発掘調査を行う予定です。

23E区古墳時代の溝の土器出土状況

23E区中世の土坑の山茶碗出土状況

青山神明遺跡でこれまでに発掘調査を実施した箇所

愛知県基幹的広域防災拠点整備事業（調整池）に伴う

青山神明遺跡地元説明会資料

令和６年４月13日（土）

今回の青山神明遺跡の発掘調査は、愛知県の基幹的広域防災拠点整備事業に伴い、実施しているもので、愛知県埋蔵文化財センターがその管理業務を実施しています。令和６年１月から調査を進めており、調整池の一部（２３Ｄ区）と幹線水路部分（２３Ｅ区）は終了し、現在は調整池の一部（２４Ｃ区）と給食センター前の道路地点（２４Ｄ区）の調査を行っています。

今回の説明会では、古代から中世の遺構が発見された２３Ｄ区の東半分を中心に、他の調査区で出土した遺物や調査写真なども紹介します。なお、これまでの調査成果は愛知県埋蔵文化財センターのホームページから青山神明遺跡発掘調査だよりをご覧ください。

編集
配布

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
HP http://www.maibun.com

調査支援　国際文化財株式会社

〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802 の 24
電話（0567）67 - 4163【調査課】
X　https://twitter.com/aichi_maibun
Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi

令和６年４月13日配布

２３Ｄ区・２４Ｃａ区の調査成果

２３Ｄ区と２４Ｃａ区では、古墳時代、古代、中世の遺構などがあります。

古墳時代から古代にかけては、掘立柱建物跡が５棟以上、竪穴建物跡が４棟以上、竪穴状遺構や溝などの遺構が確認されています。

掘立柱建物跡は全て外周部に柱穴を設ける側柱建物です。大きめの柱穴で構成される掘立柱建物跡は４棟がみつかっており、１は２間以上×２間（桁行約3.3m）、２は４間×２間（桁行約7.5m×梁行約3.5m）、３は３間×２間（桁行約7.1m×梁行約3.5m）の大きさで、規模や方位はよく似ています。柱穴から須恵器杯身などが出土するので古代のものと推定されます。これ以外に小さめの柱穴で構成される掘立柱建物跡がいくつかありますが、規模や方位がバラバラです。柱穴から須恵器が出土しており古代の可能性が高いですが、中世まで時代が新しくなる可能性もあります。

一方、竪穴建物跡は平面が２～３m隅丸方形の浅い穴で、一部に柱穴が確認されますが、炉跡は見つかっていません。多くは古代と考えられますが、竪穴建物跡２は土師器高杯が出土しており、古墳時代のものと思われます。

竪穴建物跡よりも深い竪穴状遺構も２基存在します。床面に柱穴はなく、１はバラバラになった焼土が出土し、２は粘土塊が貯蔵されていました。こうした状況から、竪穴状遺構は作業場などに使用されたものかもしれません。

中世の溝２の遺物出土状況

中世では、区画溝、円形周溝遺構が２基以上、井戸や墓と思われる土坑などが発見されました。

区画溝は、調査区中央に東西方向に流れる大溝があり最近まで繰り返し利用されていたようです。この大溝に並行する形、あるいは直角に折れ曲がる形でやや小規模な溝が南北両側にあり、これも場所を変えながら掘り直されていたようです。小溝からは山茶碗や古瀬戸製品が出土しており、中世と考えられますが、須恵器が出土する場合もあり、一部の溝は古代まで遡る可能性もあります。

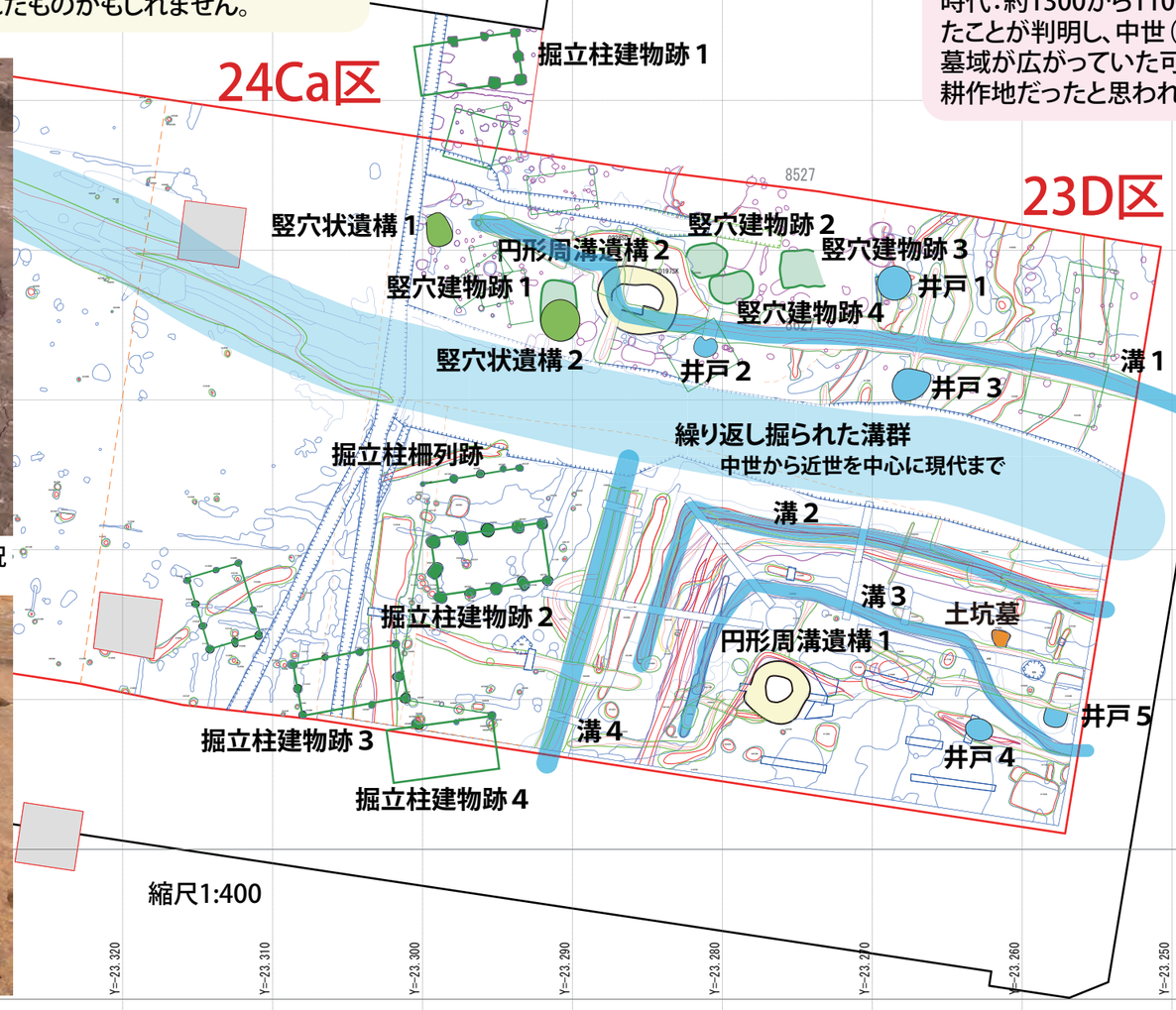
円形周溝遺構は、正確な用途は今のところはっきりしません。ただ、円形周溝遺構１からは大量の円礫とともに常滑や古瀬戸の壺などの破片が出土しており、火葬骨を納めた集石墓の可能性も考えられます。

井戸は５基見つかっています。素掘りで深さは１m前後ですが、地下水が高いためこれでも十分に井戸として役目を果たします。このうち井戸２は11世紀（平安時代）まで遡ります。また、土坑の中には山茶碗が完全な形で出土するものがあり、これは土坑墓の副葬品ではないかと考えられます。

調査の結果、この２３Ｄ区と２４Ｃａ区では、古代（奈良時代から平安時代：約1300から1100年前）の掘立柱建物と竪穴建物からなる集落があったことが判明し、中世（鎌倉時代から室町時代：約800から600年前）では墓域が広がっていた可能性が考えられます。その後の土地利用のあり方は耕作地だったと思われ、現在につながっていきます。

竪穴建物跡２の古墳時代の土器出土状況

掘立柱建物跡２の完掘状況



中世の土坑墓の遺物出土状況

円形周溝遺構１遺物出土状況